

愛知国際会議展示場株式会社（AICEC）の取組状況（事業報告）

1. 事業概要

①愛知県国際展示場（Aichi Sky Expo）の概要

愛知県は、製造業を中心とした世界有数の産業集積地であり、国際空港や高規格道路網などの充実した交通インフラを誇ります。Aichi Sky Expo は、その特性を活かし、展示会を通じた新たな交流を促進し、新産業の創出や既存産業の発展を支えています。また、国内外からの集客による「産業首都あいち」の新たな交流・イノベーション拠点としての役割を担っています。



Aichi Sky Expo

Aichi Sky Expo は6つの展示ホール、18室の会議室、約 36,000 m²の屋外多目的利用地、3,447 台の駐車場を備えた大規模施設です。その特長は、国内初の国際空港直結型の展示場であること、国内最大級の展示面積 60,000 m²を有すること、国内唯一の常設保税展示場であることなどが挙げられます。

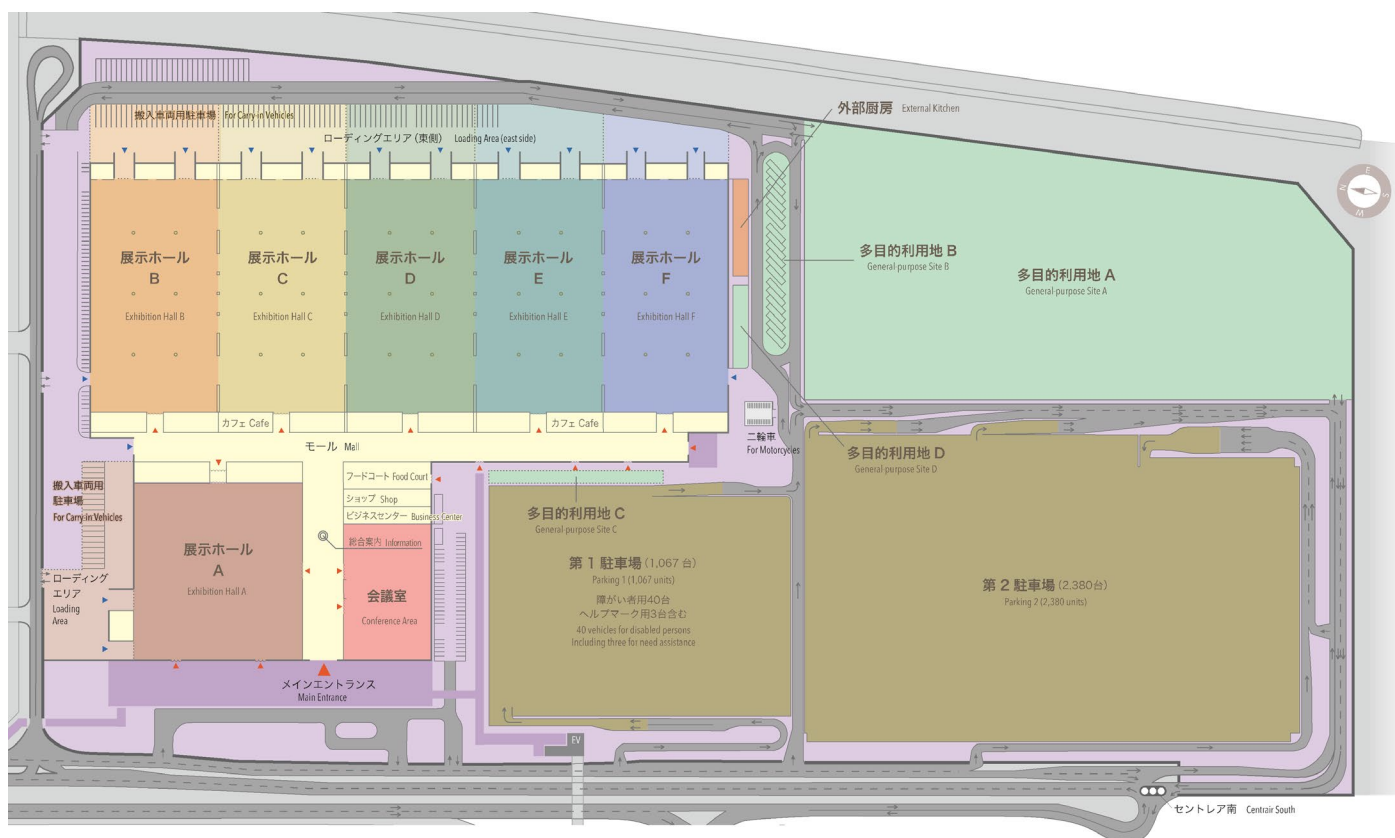
②Aichi Sky Expo の施設運営

Aichi Sky Expo の運営は、コンセッション方式^{*1}を採用しており、フランスの企業 GL events SA（GL イベント）と前田建設工業株式会社が共同で設立した愛知国際会議展示場株式会社（AICEC）が運営を担っています。GL イベントは世界規模の展示会場等施設運営会社であり、世界で 60 もの施設を運営しています。2025 年度には「第 20 回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)」の公式プレスステージパートナーにも就任しました。一方、前田建設工業株式会社は、日本のコンセッション事業の先駆的企業であり、Aichi Sky Expo へのアクセス道路を含む愛知県内 8 つの有料道路のコンセッション事業や、愛知国際アリーナ（IG アリーナ）の運営にも関わっています。

このコンセッション方式により、民間事業者の創意工夫を活かしながら、低コストで高品質なサービス水準の提供を実現しています。その結果、県内企業・県民・利用者の利便性向上、運営に当たる民間事業者の収益確保、行政負担の軽減といった「三方良し」の仕組みができています。

また、多目的利用地 A のコンセッション方式に基づく運営期間が 2024 年 3 月末で終了しましたが、指定管理者制度^{*2}の活用により 2024 年 4 月以降も AICEC が管理を継続しています。

<Aichi Sky Expo 施設配置図>



③関係機関との連携

中部国際空港やその周辺エリアにおいては、愛知県と常滑市により「あいち・とこなめスーパーシティ構想」の実現に向けた取組が行われています。この構想は、最先端技術・サービスの社会実装フィールドとすることでイノベーション創出の拠点化を進めることを目指すものです。この構想の中核を担う拠点の一つである Aichi Sky Expo の運営事業者として、AICEC は、本コンセッション事業を通じて、引き続き「あいち・とこなめスーパーシティ構想」実現に向けて積極的に寄与していきます。

2. 利用実績

2025 年度の利用状況について、展示ホールの延べ利用面積は約 554 万㎡、稼働率は 28.0% となり目標稼働率としていた 25% を上回りました。展示ホールの稼働に伴い、会議室利用も昨年度より上回る結果となりました。屋外多目的利用地の利用面積は約 122 万㎡となり、昨年度より減少しました。

催事件数は、会議室・多目的利用地利用含めて 150 件となりました。2025 年度におけるイベント種別ごとの利用状況等は以下のとおりです。

①イベント種別ごとの利用状況

1) B to B イベント

愛知県で初めての開催となる日本最大級の観光総合イベント「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」、同時開催となった「VISIT JAPAN トラベル & MICE マート 2025」、東海地域最大級、農業・畜産分野のさまざまな課題解決を目的とした展示会「AGTS 農業展」などの催事が新規開催され、利用面積は約 129 万㎡（昨年度比 125%）となっています。これらの展示会は、地域の「人・モノ・情報」の交流を促進するとともに、愛知県が持つ産業・地域資源の魅力を広く発信し、地域課題の解決に向けた新たな技術やビジネス創出の機会となりました。2026 年度以降も継続して開催されるよう営業活動に努めていきます。

また、10月に開催された「あいち技能五輪・アビリンピック 2025」は、2028年開催の技能五輪国際大会(65以上の国・地域が参加)の会場として Aichi Sky Expo が決定していることから高い関心を集め、多くの来場者で賑わうとともに、技能の重要性や魅力発信にも繋がりました。



ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸



AGTS 農業展

2) 企業イベント

入社式、全社員及び会員が参加する決起集会や運動会、懇親会など大規模施設の特長を活かした催事が開催されました。今後も引き続き、周辺ホテルや飲食店、観光施設との連携を活かして MICE の会場としての認知強化を推進していきます。

3) B to C イベント

2025年度は、「オートメッセ in 愛知 2025」や「トラック Fes 2026」など新規催事が増加しました。利用面積は約 80 万㎡(昨年度比 91%)となりました。

「オートメッセ in 愛知」については、2026年度の開催も決定しております。引き続き、地域と連携した支援策を強化し、新規催事の継続開催および新規案件の誘致拡大に繋げていきます。

4) ライブイベント

昨年度に引き続き名古屋市総合体育館のクロコくんホール(旧愛称:日本ガイシホール)の改修工事に伴う休館により、Aichi Sky Expo がライブイベントの受け皿となった影響等で、利用面積は約 255 万㎡(昨年度比 99%)となりました。

アリーナ型コンサートにも対応可能な展示ホール A の他、展示ホール B~F において複数ホールを使用したフェスが開催されるなど、ライブイベントにおいても、競合施設にはない Aichi Sky Expo の特長を活かした催事が開催されました。

5) その他のイベント(ゲームイベント、スポーツ、会議、試験など)

その他のイベントでは、「ポケモンカードゲーム チャンピオンズリーグ」をはじめとした複数のカードゲームイベントが開催され、今後も拡大を見込んでいます。

「ASIA esports EXPO 2026」は 2026 年に Aichi Sky Expo も会場とされている「第 20 回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)」の日本代表候補選手最終選考競技会として開催されました。

自動車技術や産業振興に資する人材を育成する産学官民のものづくりコンテスト「学生フォーミュラ日本大会 2025」も継続して開催されました。これらの催事を通じて、若年層を中心とした新たな交流やコミュニティ形成が進むとともに、地域・産業・文化の発展にも繋がっています。

②催事件数

Aichi Sky Expo で 2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの期間に催された催事件数は 150 件となり、昨年度に比べて 19 件増加しました。

・ イベント種別ごとの内訳 （会議室・多目的利用地の利用を含む）

イベント種別	件数		昨年度比	構成比
	2024 年度	2025 年度		
1) ライブイベント	55 件	59 件	107%	39%
2) 企業イベント	30 件	27 件	90%	18%
3) B to C イベント	19 件	22 件	116%	15%
4) ゲームイベント	7 件	17 件	243%	11%
5) B to B イベント	6 件	14 件	233%	10%
6) 会議	7 件	5 件	71%	3%
7) スポーツ	4 件	3 件	75%	2%
8) 試験	3 件	3 件	100%	2%

③主要な催事

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日までの期間に催された来場者数の多い催事は、次のとおりです。

開催時期	催事名	来場者数(人)
9 月	ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸	127,677
7 月	ディズニー・オン・アイス 2025	68,000
11 月	FIELDSTYLE EXPO 2025	52,000
5 月	FIELDSTYLE JAPAN 2025	50,000
11 月	なにわ男子 LIVE TOUR 2025 'BON BON VOYAGE'	44,520
4 月	第 4 回名古屋モーターサイクルショー	44,253
7 月	オートメッセ in 愛知 2025	39,460
12 月	Number_i LIVE TOUR 2025 No. II	36,612
7 月	人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA	34,458
11 月	BE:FIRST 2nd Fan Meeting -Hello My "BESTY" vol.2	32,000
10 月	あいち技能五輪・アビリンピック 2025	29,828



第 4 回名古屋モーターサイクルショー



あいち技能五輪・アビリンピック 2025

④展示ホール稼働率

2025 年度の展示ホール稼働率は 28.0%（昨年度 27.4%）となり、昨年度を上回りました。

新規催事が増加したことに加え、クロコくんホールの改修による休館の影響等により、ライブイベントの利用が昨年度並みであったことが主要因となっています。

年間の稼働率（%）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
21.0%	26.8%	21.0%	31.2%	23.4%	37.5%	40.0%	34.7%	34.6%	11.1%	26.1%	28.4%	28.0%

⑤来場者数

2025 年度の来場者数は 1,598 千人（昨年度 1,360 千人）となり、昨年度と比較して約 238 千人増加しました。7 月は平日に「人とくるまのテクノロジー展 2025 NAGOYA」などの B to B イベント、週末には「オートメッセ in 愛知 2025」や「ディズニー・オン・アイス 2025」などの B to C イベントやライブイベントが開催されたことにより、2025 年度内で最多となる 228 千名の来場者数を記録しました。

年間の来場者数（千人）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
130	173	52	228	100	201	69	218	145	74	136	72	1,598

注）千人単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しません。

3. 収支実績

本コンセッション事業に関する 2025 年度の営業収益は合計 1,598 百万円となりました。内訳は展示ホール、会議室、多目的利用地、備品等の利用料金収入合計が 1,312 百万円、駐車場の利用料金が 225 百万円、その他サービスの収入合計が 6 百万円、飲食収入が 55 百万円となっています。

一方、営業費用の合計は 1,035 百万円でした。内訳は施設維持管理費 445 百万円、各種活動費 22 百万円、一般管理費等 388 百万円、駐車場関連費 78 百万円、飲食関連費 17 百万円、減価償却費 84 百万円、その他サービス 1 百万円となっています。

これらの結果、本コンセッション事業に関する営業損益は 563 百万円の黒字となりました。

年間の収支実績（単位：百万円・税抜）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
営業収益	104	146	76	178	128	138	184	190	170	54	108	122	1,598
営業費用	74	59	84	100	78	103	87	73	140	69	78	92	1,035
営業損益	30	87	-8	78	50	35	97	117	30	-15	30	30	563

注）百万円未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計とは必ずしも一致しません。

また、コンセッション事業以外の営業損益については、指定管理者としての多目的利用地 A が 27 百万円（収益 55 百万円、支出 27 百万円）、任意事業が 36 百万円（収益 74 百万円、費用 38 百万円）の、それぞれ黒字となりました。

4. 業務別の主な取組内容

Aichi Sky Expo の運営業務は①統括マネジメント業務、②施設維持管理運営業務、③附帯事業運営業務、④官民連携による需要創造推進業務に大別されます。また独自の事業として、⑤任意事業を実施しています。

各業務の概要と 2025 年度の取組状況は以下のとおりです。

①統括マネジメント業務

事業計画の策定を始めとした年度計画管理、また、これらに関連するモニタリングを実施しました。経理業務として、予算管理や財務諸表等の作成と報告、総務業務としてレポート管理や台帳管理、その他連絡会議や協議会等の開催のための各種調整・準備を実施しました。レポート管理においてはセルフモニタリング業務^{*3}を総括し、年度管理計画書を始めとした Aichi Sky Expo の運営の全体管理に関する各種文書の作成や取り纏め、各部門のレポート提出管理等を行いました。また、研修を含む人事関連業務の管理、会社法関係書類の管理、契約関連書類の管理、社内全体への情報共有や、部門間の調整といった業務も実施しました。これらの業務の実施を通じて、Aichi Sky Expo の運営に関する全体管理が円滑に行われました。

②施設維持管理運営業務

1) マーケティング・プロモーション業務

昨年度に続き、より多くの来場者を呼び込むために、ホームページや公式 SNS アカウントを活用し、最新の催事情報や見どころ、催しの様子を積極的に発信し、関心を持ってもらう機会を増やしました。

昨年度にウェブサイトの主催者ページを全面的にリニューアルし、よりスムーズに情報を取得できるようにしましたが、2025 年度は、加えて来場者ページのデザインや構成を改善し来場者にとってわかりやすい内容としました。

次に、全国のイベント担当者や企画会社が集まる「イベント総合 EXPO」に出展し、イベントを検討している主催者や企画・運営会社の担当者に向けて、具体的な提案や営業活動を行いました。

さらに、MICE 需要の回復が進む中、昨年度に引き続きアジア太平洋地域の MICE を紹介する専門誌「TTGmice.com」を活用し、オンライン広告を掲載しました。同サイト内に広告バナーを設置するとともに、LinkedIn や Facebook にも記事を投稿し、広く情報を届けました。

また 2025 年 9 月の「ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸」を、Aichi Sky Expo を周知する絶好の機会と捉え、連動する形で各種メディア媒体を通じて情報発信を行いました。MICE 専門の WEB マガジンでは関連する連載記事を発信しました。開催地として選ばれるために必要な情報は、整理して専用の LP (ランディングページ) 上で発信しました。

2) 誘致・営業業務

Aichi Sky Expo の継続利用を促進するため、ターゲットとなる主催者や催事に向けて、誘致営業に取り組んでいます。

愛知県の産業を活性化する展示会の誘致については、中部地域の産業基盤を活かすことができる産業の展示会を中心にアプローチしました。また、愛知県との連携により、出展者や来場者の集客支援や官民連携による補助制度の情報を提供することで、Aichi Sky Expo で催事を開催するメリットを具体的に示しました。その結果、2026 年度には「モノづくり」「社会課題解決」「先進技術」などをテーマとした新たな展示会の開催を予定しています。今後も、中部地域の産業の発展につながる展示会の誘致に注力していきます。

他にも企業による周年記念イベントや社内大会、懇親会などの会場としてアプローチを実施し、企業イベントの会場としても選定されています。

また Aichi Sky Expo ならではの設備を活用した催事の誘致営業にも積極的に取り組んでいます。屋外多目的利用地では、展示ホールとの併用による屋外イベントの熱中症対策や、製品発表会・試乗イベントの提案を行いました。さらに、ホテル厨房並みの設備を備えた外部厨房^{※4}を活かし、企業イベント主催者に向けて、厨房を活用したパーティプランを提案しています。

海外の MICE イベント誘致にも力を入れています。香港で開催された UFI Global Congress に参加し、MICE 関係者との関係構築・Asia World - Expo との意見交換・JNTO 香港事務所との面談、展示場の視察、などを実施しました。

また、2 月にはメルボルンで開催の AIME (Asia Pacific Incentives and Meetings Event) に JNTO 共同ブースの一員として出展しました。海外バイヤーとの有望な接点を数多く獲得でき、海外営業として非常に成果の高い出展となりました。

3) 予約管理・利用許可・利用料金徴収等業務及び催事開催支援業務

予約管理・利用許可・利用料金徴収等業務を規程に基づき適正に実施いたしました。

また、初回利用や早期申請に対する割引を設定することで新規主催者による利用を促進するとともに、継続利用の促進や閑散期である 1-2 月の新しい催事の誘致のための割引制度を継続しています。

4) 施設維持管理業務

建築物保守管理業務、設備保守管理業務、備品等保守管理業務、外構施設保守管理業務、警備業務、衛生管理・清掃業務、総合案内業務を年間業務工程計画表や各種催事の開催予定に沿って実施しました。

2025 年度も効率的かつ効果的な業務実施のため、GL イベントグループのノウハウを取り入れた業務の見直しとアクションプランの作成・実行に取り組みました。

アクションプランで設定した活動の一環として、催事による施設利用がない日は、施設運営に影響のないエリアの照明を削減するなど、省エネへの取組を行いました。また、催事開催時においても、施設利用者に支障が出ない範囲で空調運転を効率的に行うため、共用部空調の温度調整や、冬季における展示ホール内では、シーリングファンの運用を主催者へ促すなど、電気使用量の抑制を行っております。

また、2026 年 4 月からの施設維持管理業務委託において、コスト削減を目的に、一括発注から分離発注に切り替えるために 2025 年度に委託業者へのプロポーザルを実施しました。

5) 渋滞対策、防災・災害対策等

・渋滞対策

催事開催時には多くの搬入車両や来場者車両が集中し、周辺道路も含めた混雑や渋滞の発生及び中部国際空港の旅客の利用者への影響が懸念されることから、催事の開催状況に応じた渋滞対策に取り組んでいます。

周辺道路の混雑対策としては、駐車場の入出庫の迅速化を実現し、車が滞留することを防ぐため、催事の種別や来場者の特性を踏まえた誘導の調整や路上対策の強化を行いました。

さらに広域な混雑・渋滞対策として、関係交通機関との情報共有・連携にも注力しています。その一環として、名古屋鉄道株式会社に催事開催時における時間別来場者数の想定を共有することで、必要に応じて増便・増結等の柔軟な対応がされました。加えて、大型催事実施の際は、愛知県・中部空港警察署・愛知道路コンセッション株式会社・中部国際空港株式会社とも調整し、事前に当日の道路利用状況を想定、共有することで、個別の催事に応じた対応を可能にしています。

また、主催者とも事前の協議・調整を密に行い、車両誘導計画の策定や交通誘導員の適正配置といったご協力をお願いすることで、更なる利便性の向上と渋滞の解消に取り組んでいます。

・防災・災害対策

危機対応マニュアル・緊急対応フロー等を更新し、AICEC 社員のみなならず協力企業等の関係者への一層の浸透を図るため、常滑市消防署の指導を仰ぎながら年2回の防災訓練を適切に実施しています。

また、今後起こりうる大規模災害を想定し、中部国際空港株式会社との連携や合同訓練等を視野に調整を進めるとともに、実際の災害時の対策・対応を視野に入れた防災訓練の実施や計画等の見直しを適宜行っています。

・催事開催に伴う危機管理

催事開催に伴う危機管理マニュアルに基づき、AICEC 社内に設置するリスク評価部会（関係部門の長で構成）において組織横断的なリスクの評価や対策を検討し、リスクの分類・種別分類、収集すべき情報を整理して対応を行っています。また、必要に応じて愛知県や関係機関との情報共有・調整を行っています。

③附帯事業運営業務

附帯事業運営業務として、駐車場運営、飲食・売店等利用者利便施設の運営、総合保税地域の機能を活用した展示会支援を実施しており、2025 年度は以下のとおり実施しました。

1) 駐車場運営

駐車場の利用実績は下表のとおりです。2025 年 9 月に駐車場の料金を改定しました。

年間の駐車台数（千台）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
17	28	13	31	32	22	9	35	22	7	24	15	255

駐車場の運営や周辺交通対策については、中部国際空港株式会社を始めとする周辺事業者及び所轄警察署と適宜情報共有・協議の場を持ち、連携して対応にあたりました。

また 2025 年 9 月及び 11 月に駐車場を利用された車両の一部について、駐車場利用料金の過徴収が発生しました。これらの件につきましては、公表及び県への報告、返金対応等、適切に実施しました。

2) 飲食・売店等利用者利便施設の運営

催事にご来場いただく皆さまに快適にお過ごしいただけるよう、催事開催日にはフードコートや売店に加え、コピーサービスや宅配便の発送を受け付けるビジネスセンターを営業しました。さらに、来場者ニーズに応え、利便性をより高めるため、2025 年度はカップ式コーヒーやフレッシュオレンジジュース、アイスクリームなどの自動販売機を新たに設置したほか、館内共用部ではオリジナルスイーツなどを提供するフードワゴンの営業を開始しました。

3) 総合保税地域の機能を活用した展示会支援

2025 年度は、「World Robot Summit 2025 AICHI」において、保税展示が実施されました。今後も利用促進に向けた取組を進めていきます。

④官民連携による需要創造推進業務

官民連携による需要創造推進業務は、地域プロモーション事業、催事開催支援事業、懇談会等開催事業を実施することとしており、いずれも、愛知県と AICEC で構成する官民連携組織「Aichi Sky Expo 活性化推進機構」として実施しました。

また、新たな催事誘致につなげるために、MICE が開催される地域の周辺エリアのグルメ、アクセスといった魅力を重視する主催者の声に応えるべく、所在地である常滑市と催事の開催情報を共有し、ステークホルダーとともに来場者に向けたサービス内容の検討を行いました。

その結果、常滑市の事業として、常滑駅と Aichi Sky Expo を結ぶ無料シャトルバスの運行や、市内飲食店で使える食べ歩き・飲み歩きクーポンの配布が実施されました。他にも名古屋鉄道株式会社と連携した広告支援や、空港レストランでの割引サービスなどを実施し、来年度以降も来場者向けサービスを充実していきます。

1) 地域プロモーション事業

地場産業の活性化及び地域の産業界の展示場への参画意識の醸成を目的として、大規模催事や来場者が多い催事の開催時に県産品 PR コーナーを設置しました。また、名古屋鉄道株式会社と連携し、鉄道による来場の促進や催事及び Aichi Sky Expo の認知度向上を目的として、名鉄デジタルサイネージや駅構内、車内に広告を掲出したほか、セントレアアクセスプラザから Aichi Sky Expo に続く海上アクセス通路にフラッグ広告を掲出しました。

2) 催事開催支援事業

国際的な催事や全国的な産業見本市等の県内への誘致を通じ、展示会産業の活性化を図ることを目的として、9 件の催事に対し会場利用料金の補助や来場者向けシャトルバスの運行費用を行いました。そのほか、主催者向け WEB サイト「Welcome Support」の整備や、近隣ホテルや自治体の持つスペースにおける Aichi Sky Expo 開催催事の周知、空港レストランでの特典、といった主催者・出展者向けの支援を行いました。

3) 懇談会等開催事業

地域を挙げた催事の受入体制を整えるため、2026 年 3 月に Aichi Sky Expo 需要創造会議^{※5}の受入体制充実 PT を開催し、催事に関する情報を共有したうえで、地元の観光関連団体や宿泊施設、空港、鉄道会社等に意見をいただきました。高速道路 PA や自治体の持つスペースでの来場者向けの広報協力、空港レストランでの特典など、地域として主催者を支援する枠組みの構築に取り組みました。

⑤任意事業

施設運営を実施する中で、利用者の利便性を高めるために必要と考えられるサービスの提供等のため、要求水準として求められている業務に加え、AICEC の責任と費用負担の下、自らの提案に基づく事業（任意事業）を実施しています。事業の内容はケータリングサービスの提供や備品レンタル、清掃・警備の手配等多岐にわたり、適宜見直し、追加等を行っています。

5. ガバナンスへの積極的な取組

①本コンセッション事業のガバナンス体制

本コンセッション事業のガバナンスの維持を図るため、AICEC は、月、四半期、年の単位ごとに各業務の進捗状況等に関するセルフモニタリングを行い、さらに愛知県によるモニタリングを受けています。

こうした取組に加え、愛知県と AICEC の情報共有や協議、合意形成を円滑化し、本コンセッション事業を安定的に継続するため、内部・外部にわたる複層的なガバナンス体制が構築されていることは、本コンセッション事業の大きな特長となっています。

愛知県と AICEC の当事者間における内部統制の仕組みとしては、月に 1 回程度開催の連絡会議、半期に 1 回程度開催の業務報告会、不定期（年に 1 回以上）開催の協議会といった複層的な会議体が設置されています。会議体の最上位にあたる協議会は愛知県、AICEC のトップレベルの責任者が参加しています。

また、外部統制の仕組みとしては、有識者による第三者機関が設置され、中立的・専門的な視点から愛知県と AICEC の協議促進、相互信頼の構築・回復を図るための助言等を受けることとしています。

さらに、内部統制・外部統制の中間的な機能として、ファシリテーターが設置されており、ガバナンスの強化・確保を確実にするための各種ファシリテーション（調整）を受けることができます。

【内部統制としての複層的な会議体】

会議名	参加者	開催頻度
協議会	県・運営権者（AICEC）の最高責任者	不定期（年1回以上）
業務報告会	県・運営権者（AICEC）の事業責任者	半期に1回程度
連絡会議	県・運営権者（AICEC）の業務責任者	月1回程度

②2025 年度の取組状況

2025 年度においては、連絡会議を毎月 1 回開催するとともに、業務報告会と協議会を各 2 回開催し、維持管理・運営を始めとした各業務の実施状況や課題について議論しました。

また、第三者機関による愛知県と AICEC に対するヒアリングは 7 月に 1 回開催されました。

ヒアリングにおいては、AICEC から 2024 年度の取組状況や営業報告と 2025 年度の行動計画について説明し、第三者機関の各構成員から意見や助言をいただきました。

ファシリテーターからは、AICEC 代表取締役社長の交代にともない、新社長の経営方針等を確認するため、ヒアリングを実施していただきました。ヒアリングにおいて AICEC は、2026 年度から 2030 年度までの 5 年間を見据えた、今後の方針について説明しました。

<用語の意味>

※1 コンセSSION方式

利用者から利用料金の徴収を行う公共施設について、施設の所有権を公共主体が有したまま、施設の「運営権」を民間事業者に設定する方式。ここでいう「運営権」は、わが国の場合には、PFI法（民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律）に規定される「公共施設等運営権」がそれに該当する。「運営権」は、民間事業者が支払う運営権対価との引き換えにより、民間事業者に設定される。民間事業者による自由度の高い事業運営を可能とすることで、民間事業者の創意工夫が生かされ、既存インフラの価値が高まり、利用促進が図られることにより、公共施設等の管理者等、民間事業者、利用者の三者にとってそれぞれ有益なものとなることが期待される。

※2 指定管理者制度

指定管理者制度は地方自治法に基づく制度で、地方公共団体が指定する法人その他の団体（指定管理者）に、地方公共団体に代わって公の施設の管理を代行させることで、多様化・高度化する市民ニーズへの効率的・効果的な対応を図り、市民サービスの向上、行政コストの縮減を図ることを目的としたもの。指定管理者は、行政処分である使用許可を地方公共団体に代わって行うことができ、地方公共団体は、設置者としての責任を果たす立場から指定管理者を監督することとなる。

なお、Aichi Sky Expo は、その運営についてはコンセSSION方式が採用される一方で、行政処分である使用許可については指定管理者制度に基づいて行われており、コンセSSION方式と指定管理者制度の併用により施設の維持管理・運営が実施されている。そうした中、多目的利用地 A については、コンセSSION方式に基づく運営期間の終期を 2024 年 3 月末に迎えることとなり、2024 年 4 月 1 日以降は、指定管理者制度に基づいて、施設の維持管理・運営が実施されることとなった。

※3 セルフモニタリング業務

AICEC が実施する Aichi Sky Expo の施設運営について、コンセSSION実施契約において定められている要求水準を充足しているか、AICEC が自身により振り返り、実績の評価を行うこと。セルフモニタリングの結果は定期的に県に報告する。

※4 外部厨房

展示場本館横に特設された厨房施設で、食品衛生の国際基準である HACCP 方式を参考に調理の動線を考慮し、日本最大級の約 375 m²に、ホテル厨房並みの充実した業務用設備が設置されている（食品営業許可証、菓子製造業許可証を完備）。

※5 Aichi Sky Expo 需要創造会議

地域を挙げた Aichi Sky Expo の需要の創造に向けて、Aichi Sky Expo を活用した展示会産業の活性化の戦略や Aichi Sky Expo の受入体制の充実に関する意見・情報交換や連携・協力の強化を図るための会議体。座長を愛知県観光コンベンション局長、座長代理を AICEC 代表取締役が務め、地域の経済・労働団体や交通関係事業者、観光関係団体等により構成される。